

ユニバーサルデザイン



ユニバーサルデザインってなに？



きみはユニバーサルデザインを知っている？
大人に知っているか聞いてみよう。どんな答えが返ってくるかな？「バリアフリー」なら「知っているよ！」と答えてくれるんじゃないかな。
ユニバーサルデザインという言葉は、ほとんどの人は最近知った言葉なんだ。
そう、ユニバーサルデザインという言葉が誕生（たんじょう）して、いろいろな人に知られるようになったのは、1990年頃から。まだ新しい考え方なんだよ。

ふつうの生活するために

近年まで、ものや考え方はしょうがいのない大人の男性をひょうじゅんとしてつくられてきていた。しょうがいのある人や子供、おとしよりや女性にとっても、とても大きなしょうがいだったんだ。ユニバーサルデザインっていうのは、「だれもが」「ふつうに」使いやすいデザインという意味があるんだけど、最初は、みんながふつう（ノーマル）に生活していけるようにしようと、北欧（ほくおう）、デンマークのバンク・ミケルセンさんという人が、形にしたんだ。それを「ノーマライゼーション」というんだよ。



当時、精神（せいしん）の発達しょうがいのある人たちが、大きな建物に集められて暮（く）らしていたのを見たバンク・ミケルセンさんは、おかしいんじゃないか？と感じたんだ。そして、しょうがいのある人も、そうでない人も、ふつうの生活ができればいいと考えたんだ。ふつうの生活ってなにな？自分のやりたいこと、勉強のやり方や、生活のすごし方をえらんだり、決めたり・・・

しょうがいのある人は、生活に困るだろうと、大きなしせつに集まって暮さねばならなかったから、自分のくらしや好みを自分で決めることができなかったんだ。そんなことおかしいよね。

この「ノーマライゼーション」、しょうがいがあってもなくても、同じ町でいっしょにふつうに暮らす、という当たり前で、すばらしい考え方は、ヨーロッパからアメリカへと広がっていったんだよ。

だれもが同じことをできるように

アメリカでは、ノーマライゼーションの考え方を一歩進めた法律（ほうりつ）ができたんだ。それは「障害（しょうがい）を持つアメリカ人法」というもの。

アメリカに住んでいるしょうがいのあるすべての人が、しょうがいのない人と同じように町に出たり、生活できるようにする。そのために、ホテルやレストラン、スポーツのしせつ、映画館（えいがかん）や劇場（げきじょう）、お店がたくさん入っているビル、空港、地下鉄、バスなどの交通も、しょうがいが軽くても重くても使えるようにしなければいけないと決めたんだ。

建物だけじゃない。例えば、耳が不自由な人や、言葉を話すのがむずかしい人は、とくべつな機械（きかい）を使って対話していて、この機械を持っていない人とは話しができなかった。この法律では、24時間365日、通訳（つうやく）をすることで機械を持っていない人とでも交流ができるように、電話会社はサービスを用意しなければならないと決められている。

もちろん“もの”だけじゃない。仕事や勉強をだれでもできる方法を用意しなければいけないと決められている。すべてのアメリカ人は、しょうがいのある、なしに関係なく、同じことができる場所と権利（けんり）が守られるようになっていくんだよ。これを守らないと罰金（ばっきん）を払わなくちゃいけない。それよりもアメリカの人は、この法律にほこりを持ち、自分の住むアメリカは素晴らしい！と思っている。今まで、しょうがいのない人のためにつくられてきた社会では、しょうがいのある人が生活するために自分でいろいろなものをとくべつに用意してきたけど、提供（ていきょう）する側が用意するように変わったことで、いつでも・どこでも・だれもが、ふつうの生活をおくれるんだね。

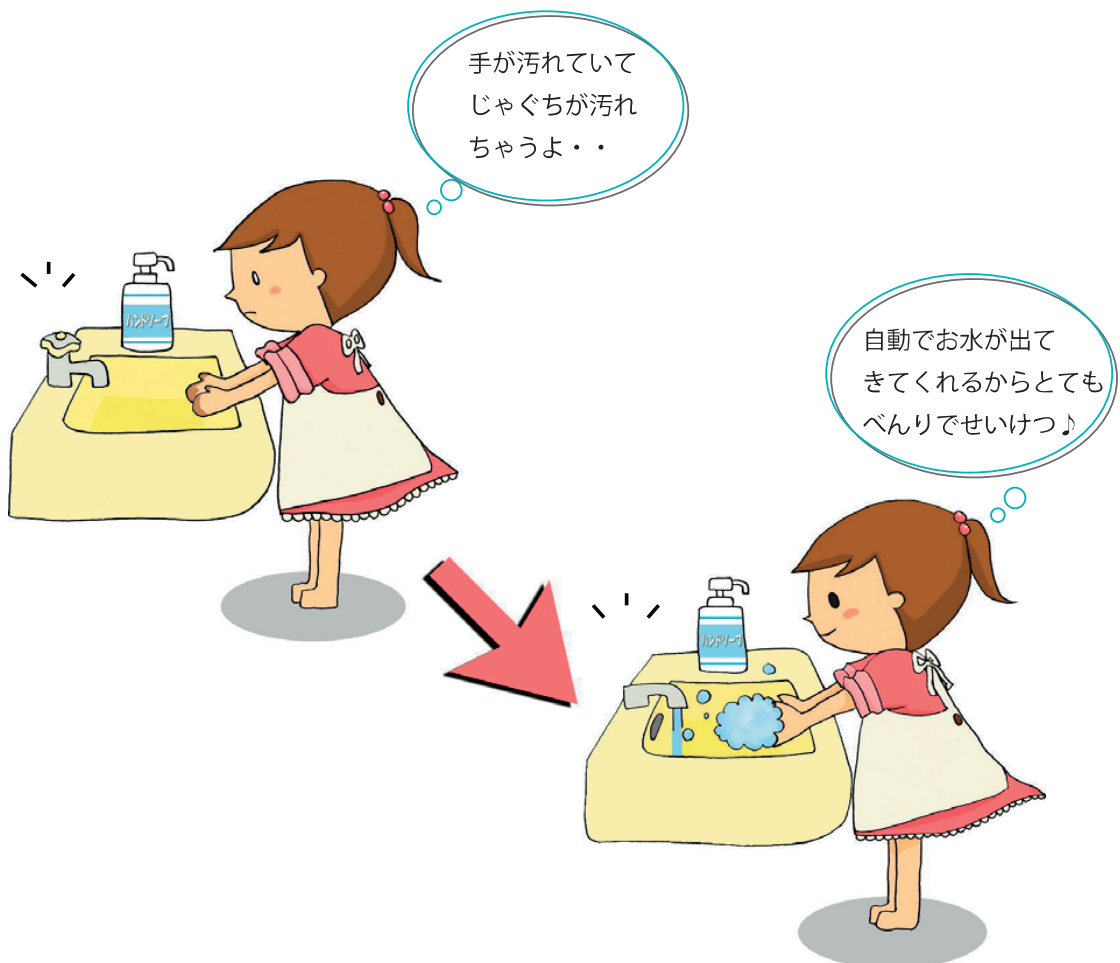


ユニバーサルデザインはだれのため？

今の日本では、だんだんおとしよりが多くなって、子どもが少なくなっている。

年をとると、目が悪くなったり、こしが曲がったり、病気がちになったり、新しいことを覚えることが大変になったり・・・当然のことだけど、きみたちだって、いつかおじいちゃんおばあちゃんになるよね。いったい、どういうものが使いやすいかな？ どういうくらしができるかな？ どこが不便（ふべん）かな？ どうしたいかな？それを考えて、ものづくりや町づくり、気持ちづくりに活（い）かしていくことが、ユニバーサルデザインの大切なことだよ。

ユニバーサルデザインは、もちろんおとしよりやしょうがいのある人のためだけじゃない。たくさんの人がそれぞれの個性（こせい）をもって生活している今だから、困（こま）ったことをなんとかするのは、おそいよね。ならば先に考えて、だれにでも使いやすいものをつくっておけば、困ったときにわざわざつくらなくてもいい。それは、いつか自分のためになって、必ず他のだれかのためにもなっていくんだ。



バリアフリーからユニバーサルデザインへ

バリアフリーの「バリア」という言葉を聞いてなにを思い出すかな？バリアって壁（かべ）のようにさえぎられる感じがするよね。階段（かいだん）や急な坂道は、しょうがいのある人にとっては、壁と同じ行き止まりになってしまうこともあるんだ。行動のさまたげになるバリアをなくそうというのが、バリアフリーだよ。

でも、しょうがいのある人にとってのバリアは、ものだけじゃない。しょうがいのない人が「あの人にはしょうがいがあるってかわいそう」ということも、しょうがいのあるひとにとっては気持ちのバリアになってしまう。みんなも、友だちや町の中で知らない人から、自分がいつもふつうにやっていることなのに「あ、かわいそう」と思われたら、どう感じる？ 悲しくなっちゃうんじゃないかな。実は一番大切なバリアフリーはこの気持ちのバリアをとることなんだ。

アメリカで生活する、ある車いすの人は「日本に来たら、しょうがい者になった気分がする」と言っただけで、アメリカでは車いすで生活することで不便（ふべん）に感じることや、とくべつな目で見られることはほとんどないらしい。それはみんなの気持ちの中が、バリアフリーじゃなく、そうすることがふつうというノーマライゼーションになっているからなんだね。



いろいろな人が、おたがいに。

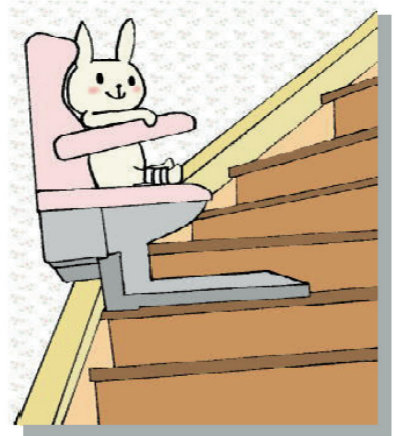


ぼくらが住む地球には、男の人、女の人、背（せ）の高い人、低い人、赤ちゃん、おとしより、大人の人、おなかに赤ちゃんがいる人、子どもの人、健康な人、身体の不自由な人や視力（しりよく）が低い人、耳が聞こえない人、いろいろな人がいるよね。そのたくさんの人は、きみと同じようにすべての人が「自分」を持って生活をしている。人間だけでなく動物たちも植物だって、一生けんめい生きているよね。

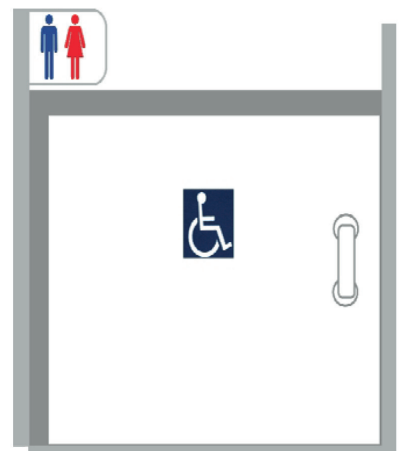
赤ちゃんが子どもになって、子どもが大人になる、そしておとしよりになる。女の人ならおなかに赤ちゃんができるかもしれないし、健康だった人が、事故や病気で不自由な身体になってしまうかもしれない。自分だけでなく相手の考え方、やりたいことを考えて、おたがいにわかって、それぞれがいっしょに生活していける方法を考えていけば、いつでも・どこでも・だれでも、楽しくすごせるようになる。相手の気持ちを大切に思うから、相手もきみのことを大切にしてくれるんだ。

これもユニバーサルデザイン？

階段（かいだん）にリフトが付いていて座ったまま移動（いどう）できるようになっているよ？
健康（けんこう）な人は使わないよね
だから、だれにでも便利（べんり）じゃない。
これはとくべつな人のためのバリアフリーだね。
階段のほかにエレベーターがあれば自分に合った方法で移動できる。それならユニバーサルデザインだね！



トイレに、車いすマークがあって、しょうがい者用って書いてあるんだ。小さな子どもを連れた人にも広いトイレは便利だと思うんだけど…？
同じトイレでも、だれもが使えるならユニバーサルデザイン。でも「しょうがい者用」って書いてあったらしょうがいのある人しか使えないバリアフリー。
これでは、ユニバーサルデザインとは言えないよね。



たとえばトイレだったら、みんなが一緒につかえるトイレをはじめからつくっておけばわざわざとくべつなトイレを設置（せっち）する必要はなかったんだ。
とくべつに直したりつくったりするのがバリアフリーなら、ユニバーサルデザインは、つくるときからみんなが使えるものにしておこうという考え方だよ！
新しくつくらなくてもちょっとした工夫でユニバーサルデザインになるものもたくさんある。
「しょうがい者用トイレ」「車いす用トイレ」と書くのをやめて「だれでもトイレ」と書くだけでも、バリアフリーだったトイレが、少しだけユニバーサルデザインになるよね！

お わ り に

もうみんなユニバーサルデザインのことがわかったかな。
いろいろな人がいることを知って、たくさんの人の立場で考えることができたときからユニバーサルデザインははじまるよ！
それと、もうひとつ大切なことは、たくさんのお金をつかって誰にでも使えるモノをつくり直すのではなく、今あるものを、もう少し別の人も使えるように..
と、くり返すことでユニバーサルデザインはもっともっと広がるよ！
最後にユニバーサルデザインの7原則（げんそく）をおぼえてね。

ユニバーサルデザインの7原則（げんそく）

1 『公平に！』

小さい人も大きい人も、理解度（りかいど）の差に関係なくみんなが同じ方法で利用ができるように

2 『自由に！』

使い方を選べるように・使う上で自由度が高い

3 『かんたん！』

使い方がかんたんで、すぐに分かること

4 『わかりやすい！』

だれにでも必要な情報（じょうほう）がわかるように

5 『安全に！』

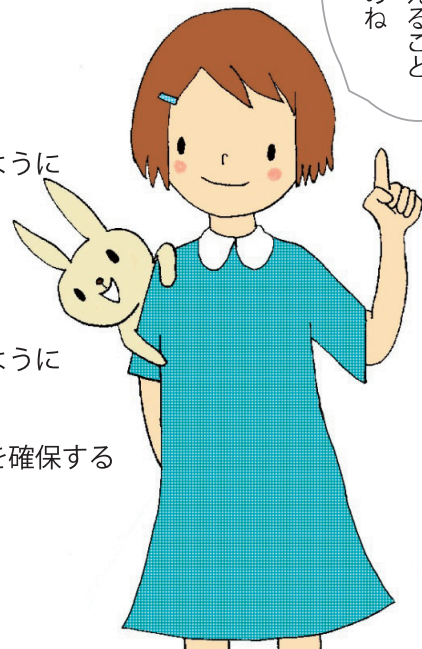
うっかりミスがきけんにつながらないこと

6 『省体力（しょうたいりよく）』

身体への負担（ふたん）が少なく、楽に使えるように

7 『スペースの確保（かくほ）』

接近（せっきん）や利用するための十分な空間を確保する



発 行 軽井沢町企画課
〒389-0192
長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2381-1
TEL0267-45-8504 (直通) Fax46-3165 (代表)
e-mail kikaku@town.karuizawa.nagano.jp

制作・編集 企画課企画係
デザイン制作 宮坂千恵子

※このパンフレットにおける漢字の使用は、文部科学省の学年別漢字配当表（小学校学習指導要領 国語）の小学4年レベルを目安に読み仮名を付けています。